

パブリックコメント（県民意見募集）での意見の要旨と対応方針

広域構想(案)について、平成24年3月～4月にかけて、県民の意見募集を行ったところ、5人の方から23件の意見がありました。意見の要旨とその対応方針は、以下のとおりです。

主な意見（要約）	対応方針
<p>P2～P4<広域構想の位置づけについて</p> <p>○嘉手納飛行場の返還も想定し、広域構想案の視点を広げた形での青写真の作成をしてほしい</p>	<p>○本構想は、今後返還が予定されている嘉手納飛行場より南の6施設を対象としております。嘉手納飛行場については、現在のところ返還予定が無いことから、本構想には含まれておりません。</p>
<p>○広域構想を市町村跡地利用計画間との関係は、県が強力なリーダーシップをとるべきであり、市町村計画への「反映」との表現は弱い</p>	<p>○本構想は、関係市町村と共同して策定しました。法的な拘束力はありませんが、今後構想を市町村の跡地利用計画へ反映していくよう、各市町村と連携して取り組んでいきます。</p>
<p>○県の諸計画との整合性が図られていない点がある場合は、今後各計画の時点修正時に見直しを図っていくべき</p>	<p>○今後県が定める関連計画の見直しが行われる時点で、本構想の内容が反映されるよう取り組んでまいります。</p>
<p>P10～P11 将来の都市構造について</p> <p>○普天間飛行場が「新たな沖縄の振興拠点」との位置づけであるが、中心的拠点として、那覇や沖縄市から取って代わろうとしているのか</p>	<p>○中南部の中心に位置する普天間飛行場を新たな振興拠点とすることにより、中南部が一体となった都市圏軸が形成され、那覇市及び沖縄市も含めた全体の発展につなげることを目指しております。</p>
<p>○中枢都市拠点、中核的拠点、中心的拠点の違いは</p>	<p>○那覇市周辺、沖縄市周辺をその性格から中枢都市拠点、中核的拠点とし、普天間飛行場跡地はその位置から中心的拠点(新たな沖縄の振興拠点)と表現しております。</p>
<p>○図を見たところあちこちに拠点があるが、それぞれが点の状態で、線及び面的な連携がはかられていない</p>	<p>○本図は、中南部都市圏の目指すべき都市構造における返還予定駐留軍用地の位置づけを示すものであり、その他の拠点間の関連等の表現はしていません。</p>
<p>P12 全体コンセプトについて</p> <p>○跡地利用の全体コンセプトjが長すぎる。コンセプトだから分かりやすいインパクトのあるフレーズでまとめるべき</p>	<p>○全体コンセプトは、構想における重要なキーワードを盛り込み、構想の考え方及び内容が伝わるよう、この長さになりました。</p>
<p>P14～P15 鉄軌道を含む新たな公共交通システムについて</p> <p>○鉄軌道については、恩納村大学院大学まで繋ぎたい。西海岸と東海岸への分岐も想定したい。安全性から極力専用の鉄路としたい</p>	<p>○鉄軌道を含む新たな公共交通システムについては、沖縄県総合交通体系基本計画を参考に、跡地利用促進の観点から必要と想定されるルートを示し</p>

<p>○鉄軌道を含む新たな公共交通システム(検討中)案は不要である (理由:LRT、BRT案で十分輸送可能であり、現中心市街地を配慮しないルート案は、新たな沿線に商業地区を生み、既存の中心市街地が衰退することになる。本土の私鉄沿線開発のようなことがあれば地元経済は大打撃を受ける。地元の発展につながらない交通インフラの整備がなぜ必要なのか) ○鉄軌道の導入は県民生活の福祉の向上を最優先に考えるべき、基地跡地利用とあわせると政治問題化し、破綻しかねない</p>	<p>ています。鉄軌道等については、現在、内閣府及び沖縄県において、調査検討が行われているところです。</p>
<p>施設の誘致等について ○普天間飛行場に外国大学を誘致してほしい ○消防庁、気象庁など国の防災中枢機能や大企業のセキュリティ機能導入への土地利用 ○エネルギー関連企業・研究施設の移入・設置 ○普天間公園に余裕のある駐車スペース、シャワー等の設備された常設ジョギングコース(5km)を設置してほしい ○牧港補給地区の臨港部は埋め立て後軍港施設として利用されるので、研究開発機能が立地できるスペースがあるか疑問である。</p>	<p>○本広域構想では、跡地振興拠点の形成方針の中で、各跡地の特性に応じた産業及び機能のタイプを想定しております。 ○個別の施設については、今後の具体的な跡地利用計画の中で検討されるものです。 ○ご意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。</p>
<p>○牧港補給地区に研究開発機能の立地を想定しているが、これは何年後を想定しているか</p>	<p>○返還時期の見通しが立たない状況ですので、この構想の目標年の設定はしておりません。</p>
<p>文章について ○P1「中南部都市圏における跡地利用は、……跡地の特性を活かした開発が行われてきたとはいえ部分もあった」は、主語と述語のつながりが交差してわかりにくい ○P2「ローリング」という表現は、一般的には伝わりづらい ○P9「平和な中南部都市圏(全てに共通する普遍的な要素)」とあるが、普遍的な要素なら、別段に表示すべきでは。 ○P10「開発を予定しているアワセゴルフ場跡地は」との表現だが、県が実施主体では無いので、「開発が予定されているアワセゴルフ場跡地は、」と書くべき</p>	<p>○文章の表現等については、ご指摘を参考とし、必要な箇所について適宜修正致しました。</p>
<p>構想策定の経緯について ○策定委員会のあり方が不可解。もっと情報を公開し多くの自治体参加による構想案をつくるべきだった。関係する自治体と地主会のみで、沖縄本島全体に影響をおよぼす公共交通政策を鉄軌道が通らないことで、マイナス影響を受ける自治体や企業、商店街、納税者に理解が得られないと思う</p>	<p>○本構想は、嘉手納飛行場より南の6施設を対象とするものであり、関係する市町村及び市町村地主会に検討委員会に参加してもらいました。また県民アンケートや地主アンケート等により広く県民の意向も踏まえたうえで、広域構想案をとりまとめました。 また、鉄軌道を含む新たな公共交通システムについては、沖縄県総合交通体系基本計画を参考に、跡地利用促進の観点から必要と想定されるルートを示しています。鉄軌道等については、現在、内閣府</p>

	及び沖縄県において、調査検討が行われているところです。
その他 ○「アジア・ゲートウェイ機能」との表現はあまり聞かなくなったが、まだ使われているのか	○「アジア・ゲートウェイ機能」との表現は、沖縄21世紀ビジョンにおいて使用されております。
○何を根拠嘉手納飛行場より南の6施設の返還が予定されているのかきちんと説明すべき	○広域構想の背景(P1)に、6施設の返還合意についての説明がされております。